

こぼしシヨッキング

Vol.95

Kōhō shocking



みやのしゅんいち
宮野 俊一さん

●プロフィール

37歳。熊本県人吉市出身。群馬県の大学を卒業後、幼い頃から興味があった飲食業界に就職。接客を担当していたが、会社の方針で調理も担当することに。慣れない調理作業にも興味を持ち続けられたのには、家庭環境が影響していたという。30歳で帰郷、33歳で結婚を機に対馬へ。ポウリング場内のカフェレストランを経営ののち昨年5月、久田道志賀ノ鼻そばに「ダイニング波月季」をオープン。海を眺めながら食事ができる店舗で、ゆったりとした時間を提供している。

○飲食業に興味を持ったきっかけは？

僕が小さい頃、実家が食堂を営んでいました。祖母や母が料理を作り、お客さんをもてなしていた食堂は、いつも賑やかで温もりがありました。子どもに影響するのは、一番近くにいる親の姿なんだろうね。父は看護師でしたから、僕は実家の食堂の様子を毎日見ている。自然とそちらにあこがれて。大きくなったら、同じ仕事をしたいなと思っていました。

○それにして未経験の料理も担当することになるのは想定外だったのでは？

そうですね、初めて包丁を持ったのも職場でしたから。怖くて爪を削いでしまつて（苦笑）。それもあって、包丁の持ち方など実践で一から学びました。実際に料理を作ると、自分がイメージするものと自分の腕前との差に葛藤がありましたね。修業させてもらう思いで、休み返上で料理を作っていました。それをさせてもらえたこともラッキーでしたし、ホールの動きと調理の考えのどちらも学ぶことができ、今の僕にとつては良い準備の時となった幸せな年代でした。

○対馬に住むことも、お店を持つこともまた想定外のような…

妻の事業の立ち上げといろんなタイミングが合わさって、対馬に住んで飲食業を起業することになった感じです。僕は、自分の思いを通すよりも、相手の思いを飲み込んでいく性格。相手の思いに乗っかって進んでいったらどんなことが待っているんだろう、という興味や楽しみがあります。楽天的というか、アレンジが利くというか。今の場所に店をオープンすることも、当初の予定にはなかったんですけどもこの場所を見て、景色を眺めながらゆっくりとした時間を皆さんに持つてほしいと思って。実家の人吉は山間の町。山に住んでいた僕は、海へのあこがれがあったので、ぴったりの最高の場所でした。

○対馬の第一印象は？

対馬は海のイメージでしたが実際には山道が多く、実家と変わらない雰囲気違和感なく溶け込みました。釣りやドライブをしながら対馬の名所めぐりを楽しんでいます。花海荘から見る三宇田浜や、朝日が昇って海に光の道ができる様子は神秘的でした。釣りは練習中ですが、釣りをしている間は何も考えな

いで無になれ、リセットできるところが好きです。

○皆さんに提供したいものは？

味に関しては、地産地消を頭に置いてメニューを考えています。地元の人がよく使う食材でも「こんな食べ方があったんだ」と思ってもらえるようなものを考えたり、逆に地元でしか食べられないような種類の魚に出会つと、漁師さんにさばき方を教えてもらいながら勉強しています。味に加えて提供したいのは、ゆっくりくつろいでいただけるこの場所。多くの集客よりも、一人一人がゆっくりと過ごしてもらつことに重点を置いています。「ゆっくり」というのが、僕が一番合つたテーマだと思つています。ぜひゆっくり過ごしに来てください。強いて言うなら、海がきれいに見えるお天気の良い日に来ていただけたら、満足度も100点がいただけると思います（笑）。

毎回、登場してくださつた方にご紹介いただくこのコーナー。次回は美津島町竹敷にお住まいの齊藤慎治さんです。お楽しみに。